

丈夫な建築物や構造物がやっぱり大事 ～危ない建物に気を付けよう～

一井康二

「地震は人を殺さない、弱い建物が地震で壊れて人を殺す」という言葉を聞いたことがあります。誰の言葉か覚えていませんし、津波や災害関連死なども考えると、実際の様相はもっと複雑かもしれませんが、一面の真理です。

今回の能登半島地震の被害に関しても、きちんとした調査結果が出ているわけではありませんが、これまでの報道によると家屋の倒壊による死者が数多く出ているようです。振り返ると、1995年の兵庫県南部地震もそうですし、昨年のトルコ・シリア地震でも、家屋の倒壊による死者が数多く発生しています。

トルコ・シリア地震における倒壊建物と非倒壊建物の分析を進めていますが、グーグルストリートビューで確認した外観だけでも、ある程度は倒壊建物が脆弱であったことを把握できます(参考文献1,2)。もちろん、脆弱性の有無をきちんと評価するには、内部の構造の劣化度なども評価する必要があります。ただ、実際に街を歩いていると、危険なブロック塀が放置されているなど、明らかに危険な建築物や構造物は点在しています。多くの人が、自分の身の回りの建築物や構造物の危険性を認識することが、地震による死者を減らすための第一歩であると思います。

社会安全学部の学生の皆さんには、どのような建物や構造物が脆弱であるかをきちんと理解してもらい、そのような脆弱な建物や構造物をどのようにして減らしていくことができるのかを考えてもらいたいと思っています。

参考文献

- 1) 後藤永鉄, 山本真規子, 一井康二: 2023年トルコ・シリア地震における倒壊・非倒壊建築物の差異分析, 第43回地震工学研究発表会, 2023.
- 2) 山本真規子, 後藤永鉄, 一井康二: 建築物の外観耐震診断の可能性 ～2023年トルコ・シリア地震の事例分析～, 第43回地震工学研究発表会, 2023.